



## もっと軍事の現実を知ってほしい

元自衛隊員の井筒高雄氏が講演

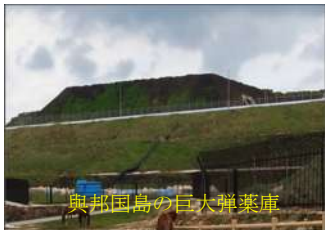
5月18日生涯学習センターで流山憲法集会を開催。

講師の井筒さんは埼玉の高校陸上部で活動後自衛隊入隊。レンジャー隊員になったが、PKO法が成立し、辞職。軍隊が銃を持って撃つのは当たり前だが自衛隊はだめ。これでは犬死だと感じた。

自衛隊は研修という名で米軍との訓練を重ねている。PKOには4万人が参加している。危険なときは先制攻撃も認めた。自衛隊は軍隊ではないので戦争についての保障はない。戦死もないし、殺しても戦時の扱いはないので、殺人となる。現実に派遣されているのにこうした事態は国会での議論もきちんとされないままだ。右翼左翼も含めて理解していない。

文民統制も軍事の細部を理解していないと成立しない。米軍との一体化や石垣や宮古、奄美など南西諸島ではミサイル基地や弾薬庫などの建設が進んでいる。もっと現実を知ってほしい。感情的な反対運動、護憲運動だけでは成功しない。

元自衛隊員らしい現実の訴えに180人ほどの参加者はカルチャーショックを受けた。



### <講演の感想>

◆自衛隊が力を持った軍隊になっていく国民が気付かないうちに。情報が大切です◆現場を知っている人の話はリアルですね。九条を変えることからこんなにもいろいろ出てくるのか。貴重なお話をありがとうございました◆知らないことが多すぎ。平和ボケしていることに改めて怖くなりました◆自衛隊の方々の保障の現実のお話が心に残りました◆改憲で緊急事態条項がいかに怖い法律であるかがわかった。これによって戦争もできるし、憲法を変えてしまうこともできる◆南西諸島の戦争シミュレーションはびっくりした。南西諸島を島ぐるみで戦いに中に巻き込ませるのはとんでもないと思います◆戦争、軍事の問題を感情的な反対だけでなく現実をもっとリアルに知ってほしいという井筒さんの話は新鮮だった。

## 何のための国賓もてなし？ 窮地に立って褒め合う日米トップ

トランプ大統領がやってきた。「令和になって初めての国賓」などと持ち上げ、食べ物やお土産の中身など微に入り細を穿ってマスコミが報道する。ゴルフ場を借り切ってプレイを楽しんだり、開催中の大相撲を升席の一部を借り切って改造までして観戦させた。前日の初優勝で盛り上がった朝乃山の一番も二人の入場で中断されて集中力を乱され、朝乃山は負けたなどと報道された。夜は炉端焼きで……など「異例」の厚遇で「おもてなし」だ。マスコミは「日米外交の盛大なお祭り」と評する。

しかしこんな大騒ぎをしてお招きして、いったい何が得られたのだろうか。大統領は安倍総理がF35戦闘機を大量に買ってくれたと讃えると、総理は「これに載せて使います」とわざわざ空母にまで招待している。

これだけの騒ぎをしても通常の共同声明は出されないし、交渉内容は秘密にされたままで、親密さだけをアピールし、お互いを褒め合い、二人が勝手に「大きな成果があった」と自賛しているだけ。

成果について野党側は「最大の懸案の貿易交渉は何も進まなかった」。欧州メディアは「大袈裟な観光旅行で、アメリカへのごますり」と批判しているという。農産物や車など貿易の難題押し付けられ、拉致問題もリップサービスだけとしかみえない。国内外で厳しい批判をされている二人、選挙を前にした税金を使ったパフォーマンスを見させられてはたまらない。

## 原発再稼働 難題次々 もう廃炉しかない

原子力規制委員会は4月、原子力発電所のテロ対策施設が期限までに完成しなければ、原発の運転停止を命じることを決めた。新規基準の安全審査に合格して再稼働した5原発9基も、期限以降はテロ対策施設が完成するまで動かさないことになる。電力各社は工事を急いでいるが、期限よりも遅れそうな原発がほとんどだ。また、同委員会は既に終了した審査で、鳥取県の大山が噴火した場合のシミュレーションなどを基に、降灰の厚さを10センチと想定していた。その後新たな論文発表などでさらに多くの火山灰が降る可能性が出てきたため、原発機能が維持されるか再審査で確認したいという。「絶対安全」はありえない。廃炉の決断を。



# 世話人

## 自己紹介

**私の履歴書……いのちが軽んじられる世の中は  
<戦争>につながります。**

9条の会・流山 **梶間恒夫**

1952年、茨城県久慈郡金砂郷村に生まれました。59年、東京都大田区洗足池に転居し、60年、流山町松ヶ丘に転入。65年、東小学校卒業。中学校は北部中学校に2年、67年に流山町が流山市に制定され、3年進級時、東部地区に中学校が誕生。68年3月東部中学校第1期卒業生。松ヶ丘から都内の高校、大学に進学し、77年、流山市役所に入庁しました。以後定年退職するまで福祉関係CWなど福祉6法関係業務で働きました。上司の恣意的な判断がまかり通る「勤務評定」を撤廃させたことが組合活動をする契機となりました。

今でも悔やまれるのは、組合委員長時代、一般事務職員が長時間労働の末に自ら命を絶ち、清掃職場では、委託労働者が粗大ごみ投入際に転落死亡したことを未然に防げなかったこと。どちらも今の風潮は本人の自己責任といわれがち。前者は、遺族が「なぜ息子は死んだのか」要因が解らず、市の冷たい姿勢に不信感を抱き職員組合と連携して公務災害認定請求。地公災は、月110時間など過重労働、それによる精神疾患と断定し公務災害と認定。後者は、自治労組織内国会議員も現地調査。委託労働者の組織化、首長交渉も行いましたが、流山市の施設不備による管理責任は曖昧。遺族は国家賠償・損害賠償請求訴訟を起こし1審敗訴。上告し2審で施工業者、委託業者、流山市が応分の負担をすることで和解。市の負担について議会でも問題となりましたが、いずれも自己責任ではなく、亡くなった方々の名誉は回復しました。

この二つの事案は、現井崎市長時に起きました。前者は実態に合わない職員削減が要因であり、後者は委託労働者の待遇、安全衛生の整備を謳う「公契約条例」の制定がなかったことです。井崎市長は自己責任論を振りかざしていましたが、働く者を愛し、いのちの重さを噛みしめてほしかった。その気持ちがあれば、尊い命を失うことはなかった。

以上、私の履歴書をさらけ出しました。今は衆議院選挙区では千葉7区に在住。流山市には深く関わる者です。命が軽んじられる今の風潮は、戦争につながります。主権者は国民、基本的人権の尊重、平和主義を貫き「いのち」を大切にする現憲法。憲法9条は変えることなく、「戦争法」を廃止し、専守防衛に徹するべきである、と考えます。

## 元号にこだわる意味は

政府は「平成時代終わる」「令和の新時代到来」などの報道が繰り返され、いかにも新しい希望が生まれるかの如くマスコミを使って煽り立てた。それも周到に準備して天皇の譲位とは別に5月まで引っ張って期待を持たせ、このキャンペーンを長引かせた。天皇・元号にマスコミの報道を集中させ、データ偽装や、モリカケ問題、消費税などから意識を逸らさせようとした。しかし時代錯誤の改元キャンペーンで国の内外に安倍総理の期待したような高揚は起こらなかった。元号で何も変わるはずもないからだ。

元号とは中国から始まったもので、宇宙を支配するのは天であり、支配者が代わると天の命令がかわったのだと権威づけたりした。王はこの世の領域を支配するだけでなく、時も支配するという思想から元号も皇帝がかえた。漢文化の影響下にあったベトナムや朝鮮、台湾などでは使われた時期もあるが、いまや元号は日本だけ。



### 天皇制のキャンペーン

そもそもほとんど意味をなさなくなっていた元号を維新に利用し復活させたのは明治政府だ。そして神武天皇即位の年などというものを捏造し、それを元年とする皇紀という日本版紀元を作り、1940年には紀元2600年のお祭り騒ぎまで行って天皇制キャンペーンを展開した。日独伊三国同盟成立の年だ。

戦後日本の体制が大きく変わり、こうした国粹主義が払しょくされていくなか、昭和天皇の高齢化と世界の流れを見た時、元号は廃止し西暦に統一をとという流れが強まった。これに強い危機感を抱き、元号の法制化運動に邁進したのが、いまの日本会議に繋がる宗教右派・極右運動家たちだった。66年に紀元節が建国記念の日として復活するなど、歴史の逆風が作りだされ74年には「日本を守る会」が発足、「憲法改正」「自主憲法制定」などの活動を広げ、地方議会への働きかけなど大運動を起こし、79年施行の元号法が成立した。元号は彼らの運動の成果のシンボルでもある。この運動体はいま日本会議などとなって安倍政権の後ろ盾となっている。

**おおたかの森駅宣伝と署名**  
7月9日(火)15:30~16:30

カンパはこちらの郵便振替口座へ  
00130-5-464735 口座名 九条の会流山